

鄙には稀なハイカラ屋敷

金家住宅・北秋田市本城



【所在地】北秋田市本城字館の下192番地
※一般公開はしておりません。所有者が居住する
住居につき敷地内への立ち入りはできません。



小説家・太宰治の生家は、「斜陽館」の名で今も青森県五所川原市の代表的観光スポットになっている。「斜陽館」が人気なのは、太宰自身の名声もさることながら、太宰の父親が津軽地方を代表する大地主でその財力の限りを尽くした豪壮なまでのお屋敷の造りが見る者を圧倒させるからである。ことほど左様に、近代の大地主のお屋敷は見応えのある建物であることが多い。

わが秋田県の阿仁地方には、戦前まで「三大旦那」と呼ばれていた有力な大地主があったそうだ。その一角が旧森吉町本城の金家である。

阿仁地方を代表する大地主・金家の住宅もまた、大いに見応えがある。昭和3年(1928)に9代当主金逸郎氏によって建てられた現在の金家住宅は、母屋が洋館と和館の2棟で構成されている。「歴史的価値の高い建築物」として平成20年に国の重要文化財に指定された。

白眉なのはこのうちの洋館だ。明らかに日本の大工棟梁の作であることは歴然としているものの、勾配の強い大屋根や屋根窓など、本格的な西洋住宅建築のデッサンが取り入れられており、たとえば国内きっての高級住宅集積地である東京の田園調布あたり

にあってもまったく見劣りしないほどの秀麗な建物だ。施主は相応にハイカラな精神の持ち主だったと思われる。

金家は地域の青年教育にも尽力したといわれ、戦後の一時期はこの住宅も大野岱女子農業学校、のちの県立米内沢高校の女子寮として30人ほどの学生を受け入れていたそうだ。その米内沢高校も統合のため2011年で廃校になった。

時代は移ろっている。多くのものどもが朽ち、消えていく。そんな中で、秋田の山里のこの美しい建物は、少しでも長くその姿をとどめていてほしいものである。

(文／己戸春策・イラスト／堀千里)